

岡崎市議会議長 様

支出番号

13

会派名

自民清風会

代表者名

中根 武彦

下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

## 政 務 活 動 報 告 書

令和6年3月12日提出

活動年月日	令和5年10月10日（火）～10月13日（金）	
氏名	加藤義幸 荻野秀範 前田麗子 鈴木静男 廣重 敦	
用務先 及び 内 容	1 10月10日	用務先 岩手県 花巻市
		内 容 保育士応援事業について
	2 10月11日	用務先 秋田県 仙北市
		内 容 角館武家屋敷の活用について
	10月12日	用務先 青森県 八戸市
		内 容 第85回全国都市問題会議
	4 10月13日	用務先 青森県 八戸市
		内 容 第85回全国都市問題会議
備 考		

視察報告書

報告者 前田麗子

参加者	加藤義幸、荻野秀範、前田麗子
視察日時	令和5年10月10日
視察先・概要	岩手県花巻市 人口：91404人 世帯数：38856世帯 面積：908.39km <sup>2</sup>
視察項目	保育士応援事業について
視察概要	<p>1. 事業の概要</p> <p>花巻市において、待機児童の解消及び保育の質を確保するために保育士確保対策として、平成29年7月に「保育力充実事業」を事業化し、現在、11事業に取り組んでいる。</p> <p>(1) 花巻市内保育施設見学・体験ツアー  (2) 保育のお仕事フェア  (3) 復職支援登録制度  (4) 子どもの保育料補助・減免  (5) 一時預かり保育の充実  (6) 家賃補助金  (7) 奨学金返済支援補助金  (8) 保育インターンシップ事業補助金  (9) 再就職支援貸付  (10) 新卒保育士就職支援金貸付  (11) 就職支援サイト「保育のおしごとナビ」開設</p> <p>2. 事業の経緯、背景について</p> <p>平成28年に保育園の入園要件が緩和され、休職中の保護者の利用も可能となったことから、平成29年入園から待機児童が一気に増えた。</p> <p>保育施設と保育士が足りなくなったため、保育施設の数と保育士の数を増やす必要が出てきた。</p> <p>平成29年「復職支援者登録制度」「子どもの保育料補助・減免」「一時預かり保育の拡充」事業を開始</p> <p>平成30年「花巻市保育施設見学・体験ツアー」「家賃補助金」「奨学金返済支援補助金」</p> <p>令和3年「新卒保育士等就職支援金貸付」</p> <p>令和4年「保育のお仕事フェア」</p> <p>令和5年「保育インターンシップ事業補助金」「就職支援サイト『保育のおしごとナビ』開設」</p> <p>特に、保育士等へ</p> <p>3. 事業の効果、利用実績について</p> <p>待機児童数</p>

平成29	平成30	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年
93人	88人	64人	62人	75人	67人

採用実績

年度	採用予定人数	採用数	達成率
R3	54人	37人	71%
R4	37人	26人	70%
R5	31人	19人	61%

① 保育施設見学・体験ツアー

R3	新型コロナウイルス感染症の影響により中止
R4	3回実施、合計55人
R5	2回実施、合計12人

② 保育のお仕事フェア

R4	34人来場
R5	11人来場

③ 復職支援者登録制度

	登録者数	再就職者数
R2	18人	18人
R3	20人	19人
R4	14人	13人

④ 子どもの保育料補助・減免

年度	保育料補助（市外居住）		保育料減免（市内居住）	
	保育士数	補助対象児童数	保育士数	補助対象児童数
R2	9人	第1子4人 第2子5人	48人	第1子33人 第2子19人
		530000円		441000円
R3	10人	第1子8人 2人	39人	第1子23人 第2子17人
		860000円		325500円
R4	6人	第1子5人 第2子1人	46人	第1子25人 第2子17人
		614080円		369700円

⑤ 一時預かり保育の拡充

年度	延べ対象児童	実対象児童数	補助額
R2	19人	8人	337850円

R3	35人	11人	342000円
R4	21人	7人	195350円

⑥ 家賃補助金

年度	利用者数	内訳（利用者の勤務開始年度）						補助額
R2	13人	1年目	6人	2年目	4人	3年目	3人	1485000円
R3	14人	1年目	7人	2年目	4人	3年目	3人	1469000円
R4	19人	1年目	8人	2年目	7人	3年目	4人	3211000円

⑦ 奨学金返済支援補助金

年度	利用者数	補助額
R2	62人	3139000円
R3	60人	3012000円
R4	33人	1727000円

⑧ 保育インターンシップ事業補助金

令和4年度 12人

⑨ 再就職支援金貸付

年度	再就職支援登録者数	再就職者数	貸付利用者数
R2	18人	18人	17人
R3	20人	19人	17人
R4	14人	5人	3人

4. 市民、当事者の声（評価・要望）について

さまざまな事業を実施しているが、花巻市保育士採用の競合が関東圏の保育施設であるとのことで、花巻市の限られた保育士人員に、花巻市で就職することのメリットを感じてもらえるようにしているという。

事業の効果として、待機児童数は少し改善。採用実績は横ばいというところである。担当者によると、仮にこの事業を実施しなければ、関東圏に保育士が流れる数はもっと多くなるとのこと。ゆえに、一定の効果があるのではないかと評価をしていた。



5. 現在の課題、今後の展開について

今後さらに保育士不足が深刻化してくる地域であり、競合が関東圏であるということで、なんらかの働きかけをしなければ、保育士減少により、保育園の箱があるが、そこで働く

保育士がいないことで受け入れができない、という状況がさらに深刻になる。

花巻市はふるさと納税が46億円あり、それを財源とした特色ある取り組みをしている。市の方針として、保育士就職応援をすることで、子育て世代が住みやすい場所にしていくという心意気を感じる事業であると感じた。

#### 【同行者の所感】

・保育士不足は全国どこの自治体でも同じ悩みを持っている。花巻市においても同じく、関東圏の自治体に人材を奪われているようだ。そのため、少しでも多くの魅力を感じてもらえるように、私立認可保育園の保育士に対し、家賃補助、奨学金返済支援。働きながら子育てをする保育士には、保育料減免・補助等の様々な事業を実施し、保育士の確保をしており一定の効果は出ているようだ。

しかし、予算も限られておりこの先何年続けられるかが鍵である。

本市においては、公私立保育園保育士の待遇が変わらないように補助をしており、金銭面では問題ないようだが、金銭面以外での待遇等の改善を積極的に行い保育士の確保、離職防止につなげてほしい。

・花巻市は待機児童の解消及び保育の質を確保するために保育士確保対策として、新規対策としての「体験ツアー」・「お仕事フェア」、復職支援として登録制度、各種補助・減免制度など11の事業を展開している。

特に新卒保育士確保につなげるため、私立保育施設が保育士養成校などの長期休み期間中に、学生のインターンシップを受け入れた経費に対し、補助をしていることや保育士の子ども保育料や家賃補助などが行われている。

待機児童解消に向け保育士確保のための苦肉の策であると思われるが、今後、本市においても検討していくことは必要であると考えます。

# 政策調査視察調査報告書

報告者：廣重敦

視察日	令和5年10月11日(水)	視察地	秋田県仙北市
視察内容	角館武家屋敷の活用について		
視察者	加藤義幸、鈴木静男、荻野秀範、前田麗子、廣重敦		

視察目的：江戸時代の城下町の街並みが今なお残り、「みちのくの小京都」とも呼ばれる角館は和の風情を味わえる秋田県内屈指の人気の観光スポットで、日本人だけでなく外国人観光客も多く訪れている。

また、国の伝統的建造物群保存地区に選定される等、文化財としても高い評価を受けている。

散策マップやパンフレット等、アクセスもよく考えられており、その取り組みを学び、本市の参考とする。



開催場所：角館樺細工伝承館

説明者：仙北市議会 熊谷副議長、文化財課 畠山参事、議会事務局 朝水事務局長、高橋参事

タイトル：角館武家屋敷の活用について

## 1. 仙北市の概要

- ・仙北市は、秋田県の東部中央に位置し、岩手県と隣接している地域で、平成17年9月20日に旧田沢湖町、旧角館町、旧西木村が合併し、誕生。
- ・面積1093.56㎢、令和5年3月31日時点での人口23,835人、世帯数10,379世帯。
- ・地域の約8割が森林地帯で、市のほぼ中央に水深が日本一の田沢湖がある。
- ・盆地特有の気候を持ち、明確な四季を持っているのが特徴的で、気温の年較差が40度以上あり、秋田県内では最も寒暖の差が大きい。
- ・城下町として発展してきた角館は1620年に芦名氏により武家町と町人町に分けられ、その町並みは現在もほとんど変わっておらず、1976年伝統的建造物群保存地区に選定。
- ・仙北市にある桧木内川堤のソメイヨシノは左岸の堤防約2kmにわたって桜のトンネルを作り、武家屋敷通りのしだれ桜と共に「日本さくら名所100選」に選定されている。

## 2. 角館の武家屋敷について

### (1) 角館の武家屋敷の概要

- ・元和元年(1620)角館地方を領していた芦名義勝によって造られ、その後は佐竹北家に受け継がれ、町割り400年を迎える。
- ・町は古城山城主館より南に720mの地点に「火除け」と呼ばれる土塁を築き、これより南側を町人の住む「外町(とまち)」、北側を武士の住む「内町(うちまち)」として区割り。内町は屋敷も広く庭には樹木をたくさん植栽し、武家の威厳と格式を醸し出している。

- ・幅 11m の中央道路の中間付近は見通しがきかないよう交差部分をずらし敵の侵入を防ぐ城下町特有の枳形を配している。
- ・これに対し、外町は間口も狭く家々が密集して建てられており、内町と対照的な町並みになっている。
- ・佐竹北家の初代、二代目が京都にゆかりが深いことから各屋敷も京都文化の影響を大きく受けている。



## (2) 国の重要伝統的建造物保存地区指定

- ・道路の形や道幅等は**現在まで原形とほとんど変わりなく保存されており、母屋、門、蔵の屋敷構えとともに武家町**の特性をよく残しており、昭和 51 年 9 月 4 日に仙北市角館伝統的建造物保存地区として国の選定を受けた。
- ・地域住民の住環境を低下させないよう配慮しながらも、江戸時代末期から明治、大正、昭和初期までの**武家屋敷町の状態を維持することを原則とし、歴史的遺構を復元**。
- ・平成 13 年 3 月に「角館伝建群保存地区の町並みを守る会」が設立され、**行政主導から住民が自らの手で行えるように移りつつあり、それは同様に防災組織にも広がった**。
- ・平成 19 年には伝建群保存地区**路上喫煙の禁止等に関する条例が制定され、土地建物の保存のために市で買い取る財源として平成 20 年に伝建群保存の基金が設立された**。

## (3) 現存する武家屋敷…一部を抜粋

- ・基本的には**管理しながら広く公開していく**。そのために**出来るだけ有料化**。
- ・民間で運用しているのが**岩橋家(無料)**、**石黒家(有料)**、**旧青柳家(有料)**など。
- ・河原田家(H29～R2 で改修)、松本家は**市で管理し有料で公開**。

## (4) さくら

- ・シダレザクラは昭和 49 年 10 月 9 日から**国の天然記念物に指定**。  
佐竹北家二代目義明の妻が京都から持参したものが最初で、その種が家臣の屋敷に広がり**今では 400 本が咲き乱れる桜の名所**に。天然記念物は現在この中の 162 本。
- ・となりに流れる**桧木内川の堤防沿いのソメイヨシノは 2 km に渡るさくらのトンネル**をつくり、シダレザクラとともに北国の短い春を彩っている。
- ・コロナ前は、**桜祭りの時期に毎年 100 万人を超える観光客が全国から訪れている**。

## 3. 質疑応答…主なもの

- ・**海外からの観光客**も多いと聞すが、何か特別なことは行なっているのか？  
→**ユニバーサルデザインの標識**、文字で各国語対応すると煩雑になる。  
**施設の管理人の方は簡単な英語対応**出来る。
- ・たくさんの観光客が訪れているが、**武家屋敷入館者を増やす取り組み**は？  
→**駐車場が離れているのが課題**、**回遊導線を工夫することで上手に引き込むこと**を検討している。



- ・この歴史的な文化遺産を継承していく上での大きな課題は？  
→所有者の高齢化。空き家が増えてきているが市で買い取ることは避けたい。  
住んでこそその伝建地区、移住者の呼び込みなどで本物を引き継げるようにしたい。  
また、しだれ桜はじめ、樹木が大型化し、個人での管理は限界。
- ・これまで、いろいろなロケ地にも使われているがどういう取り組みをしているのか？  
→映画「たそがれ清兵衛」のロケを契機にかくのだてフィルムコミッションを設立。  
そのロケ班が対応している。  
交流デザイン課との連携で、ロケ地をインバウンドの呼び込みにも活かしたい。
- ・市民はこの武家屋敷をどのように思っているのか？  
→おおむね好評だが、中には辛辣な意見も…冬は暖房器具が無く寒い、トイレ少ない  
外国人が勝手に民家に入ってくる  
市としては、ここに観光客が集中、田沢湖や駒ヶ岳にも行って欲しい。
- ・基金は上手に使えているのか？  
→持ち主が居る限り、市で賃借や売却を主導出来ないが、取り返しがつかなくなるといけないので、常にアンテナは張っている。  
店舗兼住居という利用方法は可能なので、その方法を模索している。
- ・町並みを守るボランティア組織には何人ぐらい居るのか？  
→町並み、防災共に名簿上は40人程度。実際の会合に出てくる人は15人くらい。  
ただ、桜や紅葉のシーズンには企業等がクリーンアップ活動に協力してくれているし、高校生、中学生の案内人活動も英語での案内補助等助かっている。
- ・岡崎市もさくらの名所として多くの観光客に来ていただいているが、ソメイヨシノは一般的に寿命が60年程度と言われている。また、河川法の関係で植え替え等は難しいどのように維持管理していくのか？  
→樹木医の資格を持った前任の職員がさくらの管理方針を定めてくれている。  
その方が行かれた弘前城のさくらの管理方針は間違いなく日本一、予算も一億円を超えている。  
仙北市はその経験から今年度、角館のさくらを次代へつなぐため、樹木医の資格を持つ職員を採用した。  
ソメイヨシノをまず文化財として守り、それを植え替えずに更新する方法を取る。

### 3. 伝建保存地区現地視察

#### (1) 仙北市立角館樺細工伝承館

- ・今回ここで、研修説明。
- ・旧角館町の**伝統的工芸品樺細工の振興と広域観光の拠点施設**という二つの使命をもって開館。
- ・全国の伝統産業会館の中では3番目に作られ、**角館の古い建築様式を現代にいかした建物**。
- ・館内は樺細工を始めとして工芸、文化、歴史資料の展示室。



(2) 岩橋家

- ・江戸時代の中級武士の住宅。
- ・1900年の大火災で周囲は焼き尽くされたが、**奇跡的に焼失を免れた歴史的にも貴重な建造物。**
- ・たそがれ清兵衛のロケにも使われた屋敷。
- ・民間で管理人を置いて運用しており、全室無料で公開。



(3) 河原田家

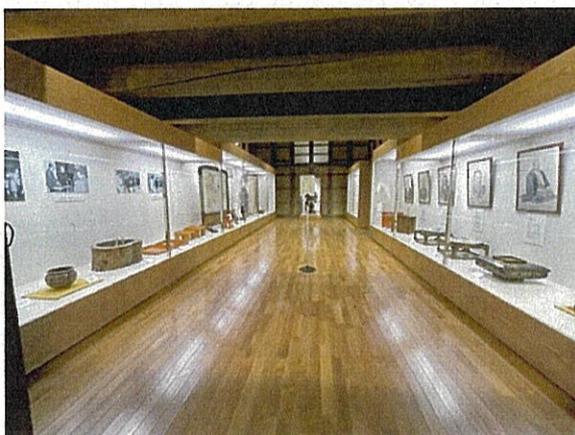
- ・芦名氏の会津時代からの**譜代の家柄。**
- ・屋敷は江戸時代の**武家屋敷建築様式**をそのまま受け継いでおり、表座敷にはこの地方の**書院造りの様式**が残されている。



ナカノマから庭を望む



ふすまに描かれた鯉図



元は米蔵であったところを展示室に

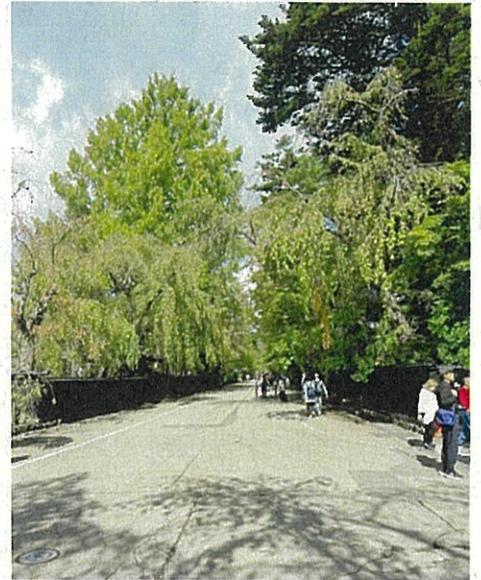


堂々とした構えの文庫蔵

- ・ナカノマに飾られている名画家平福穂庵の屏風と、その門下三森山静の襖絵は見事で案内の方からは是非！とすすめられる、座敷に腰を下ろして眺める庭園は圧巻。他にも**犬養毅の書**はじめ、建物すべて、どこをとっても退屈させない。

## 5. 所感

- ・国の重要伝統的建造物保存地区に指定されたことは誇りであると同時に、いろいろな制約がかかることを改めて知ることができ、まず、江戸時代から当時の原形を残して来られた地域の方々の苦勞と努力に敬意と感謝。
- ・武家屋敷街全体が大変ゆったりと感じ、趣を出している最大の理由は、道路幅が11mと大変広く、その両脇に並ぶシダレザクラやモミの大木にあることは間違いなく、歩いていて気持ちがいい。…右写真
- ・ただ、樹木が大型化し過ぎ、個人管理は限界を迎えているとのこと、そこに対応していく資金を補助に頼らず観光客の皆さんからいただく形が取れるのか今後注目したい。
- ・コロナ前は、桜の季節を中心に年間200万人以上が訪れている東北屈指の観光地であるにも関わらず、角館エリアには宿泊施設はじめお金を落とす施設が少なく、それは伝建群保存地区の縛りが多いこともあるため、ここを持続的に残していくための新たな仕組みが必要と感じた。
- ・たそがれ清兵衛のロケ地になったことをきっかけに、フィルムコミッションを設立しているいろいろなロケに使われている角館であるが、これさえも市の収入につながる好循環を生み出していないのが惜まれる。
- ・高齢化する桧木内川堤のソメイヨシノについて伐採や植え替えに頼ることなく、生育環境を改善し治療することで樹勢を回復させることを基本方針としてとりくんでいることを伺い、大変心強く思った。  
仙北市角館エリアの観光資源であるさくらをこれからも守っていくために、樹木医の資格を持つ職員を本年度市で新たに採用する、これは大きな市の決断だと思うが何が本当に必要なのかを考えさせられ、本市も参考にすべきと思う。
- ・河原田家を見ると、このような富豪が文化を育んできたことを再認識。  
これからもこのようなパトロンが出てくる社会を作っていくことも大切だと感じた。



### 【同行者の所感】

- ・角館地区の武家屋敷通りは、道路幅が広く清掃も行き届いていて、観光客のおもてなしに力を入れているところが見て取れる。武家屋敷通りを中心とした保存地区には毎年200万人程度が訪れ、その内50万人程が、武家屋敷を訪れているが、少し少ない気がした。せめて半数以上の観光客に武家屋敷を訪れていただき、入場料収入等で稼ぐ仕組みを考えることも必要と思った。

地域住民の協力で町並み保存をしており、長く続くようお願いものだ。  
観光客を迎えるおもてなしの心は見習うべきところがあると感じた。

・現在に至るまで伝統的建造物を残し、道路の形や道幅等を現在まで原形と変わりなく保存されていることに感銘した。

しかしながら、所有者の高齢化や空き家が増えておりその維持管理がやはり課題となっている現状が分かった。また、地区全域の樹木が大型化し個人管理での限界が来ている。

基金の活用も持ち主の意向に合う活用は難しいそうだ。伝統的建造物の維持のための収入確保方法の検討が急務だろう。

町並みを守るボランティアを組織化している。町並み保存活動や防災活動が主だが、名簿上は40人程度。実際の会合に出てくる人は15人くらい。桜や紅葉のシーズンには企業等が活動に協力しているので、企業CSR活動の促進をしていくべきと感じた。国の重要伝統的建造物保存地区に指定されたことにより、様々な制約がかかることを改めて知り、これまで維持管理をされてきた地域の方々の苦勞に感謝したい。

また、本市においても伝統建造物を維持管理し守っている地域の方々に現状を再確認し新たな支援を検討したい。

・昭和51年に国の選定を受けた「仙北市角館伝統的建造物群保存地区」は、地域住民の生活環境を低下させないように生活向上を配慮しながら武家屋敷の状態を維持することを原則として、歴史的遺構の復元を図っている。

住民組織が設立された以降、住民自らの手で行っていきけるよう、行政はサポートしていく体制であり、自主防災組織も立ち上げられ、保存基金も設立された。

角館地域も江戸時代末期から明治、大正、昭和初期までの武家屋敷の状態を維持されており、歴史的な価値は非常に高いものがある。

これらはすべて「本物」であり、本市においても本物に重点を置き訪れた人の心に残るものであるべきだと考える。

(前田)

仙北市角館は昭和51年に重要伝統的建造物群保存地区に選定され、武家屋敷青柳家、石具家、岩橋家、河原田家、小田野家、松本家が保存され、当時のままの道幅が残されており、本物を感じられる重厚感ある観光地として賑わっている。毎年200万人が訪れているが、その内50万人が武家屋敷を見学している。また特徴的なのが、観光客のリピーターが多いということだ。本物が持つ観光地のパワーが「また来たい。」と思われるのであろう。

課題としては、人口減少による地域活動の担い手不足であるという。また、武家屋敷所有者の高齢化も問題となっている。樹木も巨大化しており、その維持管理のコストも相当大変だという。そうした課題に対する対応策のひとつとして、店舗兼住宅として活用してもらうことや、農家の民泊を推進しているという。

本市においても、市内に本物の歴史建造物が点在している。本市においても地域住民による維持管理活用が行われているが、本物はいったんそれが壊れてしまったら終わりであるので、持続可能な維持管理方法についてさらに研修されたいと考える。

# 政務活動研修報告書

報告者：廣重敦

研修日	令和5年10月12日(木)・13(金)	開催地	青森県八戸市
研修内容	第85回全国都市問題会議		
参加者	加藤義幸、鈴木静男、荻野秀範、前田麗子、廣重敦		

研修目的：文化芸術・スポーツは、市民の生活に豊かさや潤いをもたらすと同時に人々の間につながりを生み出し、それが都市のにぎわいやアメニティを醸し出し、やがては都市の“顔”を形作る。文化芸術・スポーツが生み出す「都市の魅力と発展」とは、まずもってその地域に住む人々がいつまでも暮らし続けたいと思いき誇れるような都市をつくっていくための営みであり、さらにそれが地域の外の人々をも惹きつけることで、都市全体の持続的な発展へと結びついていくことが望まれる。



開催場所：八戸市公会堂・公会堂文化ホール

タイトル：『第85回全国都市問題会議』

## 1. 基調講演 「アートの役割って何だろう？」

東京藝術大学長 アーティスト 日比野 克彦 氏

(1) はじめに

・博物館、美術館の定義を ICOM(国際博物館会議)が作成。その中で、持続可能な社会の発展において、情報やインスピレーション、洞察を提供する場として博物館が果たす役割が不可欠な存在であることを発信。

包摂的、多様性、持続可能性を育むコミュニケーション、コミュニティの参加を通じ、経験を提供。

・ここ八戸市との関りは2021年に開館した八戸市立美術館の運営協議会会長をさせていただいたのがきっかけ。

出会いと結びの場にこだわり、ジャイアントルーム(市民交流の場)が目玉。

### ① 自己紹介

- ・アーティストとしての活動……………個人の仕事
- ・東京藝術大学の学長としての活動…国の仕事
- ・岐阜県美術館長としての活動……………県の仕事
- ・熊本市現代美術館長としての活動…市の仕事



## ② 活動事例

- ・ **こよみのよぶね**…出身地の岐阜で長良川に巨大行灯を冬至に浮かべる。  
行事をつくることにより、冬でも人が集まり、会話が生まれる。
- ・ **HIBINO CUP** (水戸芸術館)  
サッカーのゴールとボールとユニフォームを自分たちでつくって、みんなでミニサッカー。今年のゴールのテーマはSDGs
- ・ **明後日朝顔プロジェクト** (水戸芸術館)  
2003年からスタートし、現在全国26地域で展開。  
**美術館が拠点となり金沢市、姫路市等に各地域から集まった朝顔の苗を植える。**  
地域がつながり、活動が広がる。コンセプトは**種が記憶を運ぶ**。
- ・ **瀬戸内国際芸術祭** (香川県三豊市 粟嶋)  
TANE FUNE 海洋調査、海洋探検、レンガを集め作品を製作、物語を作る。  
海底探査船美術館 (一昨日丸) 瀬戸内海にはいろんなものが沈んでいる。  
見えない海の中を海上から見ることも。
- ・ **熊本市現代美術館**  
街の真ん中、ビルの中に位置する美術館で美術館とまちをつなぐ、熊本市役所職員と現代美術館との**連携活動**。  
様々な社会的課題にアートで取り組む。  
**街の課題を知っているのは市役所の人たち。**  
ならば市役所に話を聞きに行こう。ご用聞き。  
**熊本県の文化顧問も現在兼ねており、ART LAB MARKET で第8次総合計画展を計画中。**
- ・ **マッチフラッグプロジェクト**  
(W杯カタール大会に向けて) ミュージアムとスタジアムをつなぐ。
- ・ **芸術未来研究場**  
大学と行政、企業と共創。アートには人の心を動かす力がある。  
SDGs×ARTs 展。17の**的の素には芸術**がある
- ・ (Diversity on the Arts Project : DOOR)  
東京藝術大学で**社会人と藝大生と一緒に学ぶ「福祉と芸術」**。  
2023年度のテーマ「センサリールームプロジェクト」。  
**天草市の准看護専門学校でも特別講義を実施中。**
- ・ **共生社会を作るアートコミュニケーション** (共創拠点 39団体と研究開発)  
社会的処方→文化的処方 (薬ではなく人のつながりで治す? 癒す?) 心の産業。
- ・ 「清流の国ぎふ」国民文化祭2024  
第39回国民文化祭と第24回全国障害者芸術・文化祭の統一名称。  
**地域のソーシャルワーカー、アーティスト、シニアが一体となって取り組む。**  
大切なのはアートコミュニケーターの育成。



- ・ **海外の事例**（イギリスが先進国）マンチェスター美術館  
 アートを機能させるー**健康格差の解消法を美術館の中でアーティストを呼び、対話を通じて見つける**。それを作品にして展示する。  
 文化的処方を進めると経費が削減できる！

## 2. 主報告「八戸市の文化・スポーツによるまちづくり」

青森県八戸市長 熊谷 雄一

### (1) 八戸市の紹介

- ・ 太平洋を臨む北東北東岸に位置し、面積は約 305 km<sup>2</sup>、人口約 22 万人の中核市。
- ・ 1929 年の市制施行以来、**全国有数の水産都市**として、また**東北有数の工業都市**、**国際物流拠点都市**として着実な発展を遂げてきた。
- ・ 2021 年世界遺産登録された北海道、北東北の縄文遺跡群の 1 つ「**是川石器時代遺跡**」を有し、国の重要無形民俗文化財である「**八戸のえんぶり**」や、ユネスコ無形文化遺産の 1 つ「**八戸三社大祭の山車行事**」などの伝統文化で知られる。
- ・ 他にも種差海岸といった美しい自然景観、八戸前沖さばや八戸せんべい汁といった食など、貴重な地域資源を有する。

### (2) 文化によるまちづくり

- ・ 多文化都市八戸推進会議を立ち上げ、**多様で自主的な市民による文化活動**を推進。課題解決拠点として**八戸ポータルミュージアム「はっち」**を開館し、コロナ前は年間 80 万人が利用。
- ・ アートプロジェクトの代表例としては「**酔っ払いに愛を～横丁オンリーユーシアター**」で、パフォーマンスの場として定着。
- ・ 八戸ブックセンター。**本を読む人、書く人を増やす**、本でまちを盛り上げる。
- ・ **八戸まちなか広場「マチニワ」**…マルシェなどのイベントの場。
- ・ 八戸市美術館…**出会いと学びのアートファーム**の役目を負う、**ジャイアントルーム**。
- ・ AOMORI GOKAN…5 つの美術館、アートセンターが連携し、**5 館で 5 感を刺激**する。



### (3) スポーツによるまちづくり

- ・ スケートは八戸の風土が育んだ文化で古くから盛んに行われ、**氷都八戸**を象徴する「**八戸市長根屋内スケート場（YS アリーナ八戸）**」は 9,000 人収容可能で、**地域防災拠点の機能を併せ持つ**。
- ・ 東北新幹線八戸駅西口前の民間施設「**フラット八戸**」は**通常はアイスリンク**だが、半日で**バスケットのコートに転換可能**でアイスホッケー 3,500 人、バスケットボール 5,000 人収容可能で国内外から多くのプロ選手が集まる。
- ・ 氷都八戸パワーアッププロジェクトを通じ、**小中学生競技人口を増やし、育てる**。
- ・ サッカー、アイスホッケー、バスケットボール、3x3 の**4 種目のプロスポーツチームが八戸市に活動拠点**を置いており、地元関係機関と**八戸スポーツコミッション**を立ち上げ、活動支援をすると共にプロチームのホームゲーム開催はもちろん、子どもたちや指導者の育成、「**する**」「**みる**」「**ささえる**」といった場を提供。



#### (4) 文化の力、スポーツの力

- ・観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業など他分野との有機的な連携。
- ・拠点×ネットワーク…八戸ブックセンターの機能「セレクト・ブックストア機能」  
読む人、書く人を増やし、本でまちを盛り上げる。
- ・スケートによる教えと学びの循環、往年の競技者が子どもたちを指導、選手を育成。
- ・関心やテーマに基づくコミュニティと当事者を増やすことが大切。

#### (5) まとめ

- ・八戸大型公共施設見える化シートなどを使った公共施設のマネジメントが今後重要。
- ・新美術館の特徴ジャイアントルーム（ワイガヤエリア）と専門諸室（シーンエリア）。  
大事なのは、体験をより深めること、ジャイアント食堂や学校連携プロジェクト。
- ・オープンでパブリックなスペースとしての公共施設の活用。
- ・八戸市中心街ストリートデザイン事業 実証実験「みちニワ」。

### 3. 一般報告「まちづくりの活力は地域に根ざした文化政策から育まれる」

文化事業ディレクター 演出家 吉川由美

#### (1) まちづくりとアートプロジェクト

##### ①八戸ポータルミュージアムはっち

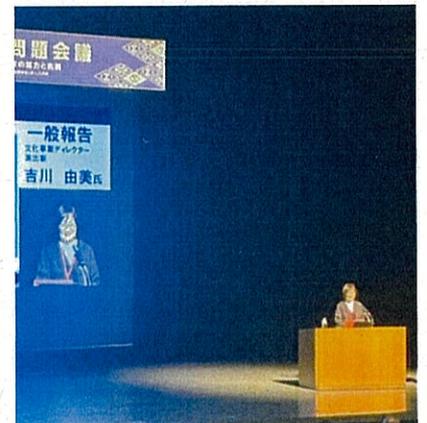
- ・にぎわいの創出、観光振興、文化振興、交流と創造の拠点。→ものづくりスタジオ、こどもはっち
- ・地域の資源を大事に想いながら新しい魅力を創り出すこと。
- ・地域資源を活かす。(文化、人、モノ、食、自然…)  
市民とともに創りあげる。まちなかに回遊してもらう。

##### ②3つの柱

- ・八戸の中心街をみんなの関心空間に。
- ・八戸の地域資源を再発見。
- ・フラットな交流と対話の場を創出。

##### <具体例>

- ・八戸のうわさ…ここのマスター昔アフロだったらしいよ？（今は坊主頭）  
無言の会話（吹き出し）が人と人をつなぐ。
- ・開館記念…八戸レビューと題し、八十八枚の日常写真を掲示（市民が主役！）。
- ・酔っ払いに愛を！…固有の空間資源の価値を知る
- ・加賀美流騎馬打毬…騎馬打毬×ロボコン×市民 持ちつ持たれつを体感  
自分事として参加 ステータスの逆転
- ・魚食の再興無くして、三陸、八戸の再興無し 自然と人がつくりだした地域。
- ・デコトラ…トラックドライバーがトラックをピカピカに磨いて寝ずに築地へ。  
活動を通じ、トラックドライバーがリスペクトされる存在に！
- ・異なる価値観を持つ人たちが共感し合える（フラットな交流）
- ・地域資源を再価値化することで郷土愛、シビックプライドを醸成し、地域経済を活性化する。



(2) 今、必要とされている文化政策とは

①八戸三社大祭に関わるはっちプロジェクト「DASHIJIN」

- ・山車は全て毎年テーマに合わせ、**市民がボランティア**で作っている。
- ・自転車で動く小さなメリーゴーランドも作ったりして。
- ・**世代も考え方も違う人たちが磨き合う。**  
→山車づくりの現場は人間形成の場
- ・地域社会の一員としての自覚が身についていく。
- ・地域社会の分母としての文化 祭りは、する、見る、支える、から成り立っている。  
→本来**射程とすべき広さ**を取り戻した文化政策  
→社会の分子ではなく、**分母としての文化政策**



(3) 危機と文化

- ・南三陸 311 メモリアル (死を迫体験)。→災害から命を守ること
- ・震災後、**海は生き返った。**→牡蠣も一年で大きくなるようになった  
湾内の**養殖いかだを3分の1**にし、持続的な漁を目指す。→漁業権の放棄  
**収穫は震災前の1.5倍**になった。
- ・講…人は1人では生きられない。獅子舞をもう一度再生する。
- ・話し合い、許し合う力。利他の心。**未来のビジョンを共有。**
- ・観光振興、関係人口獲得。危機から再生するパワー。**インクルーシブな社会。**
- ・地域社会の分母としての文化を支え育む文化政策へ！

4. 一般報告「標高差 1,500m の地勢を活かしたスポーツ・ツーリズムの創出」

長野県東御市長 花岡 利夫 市長

(1) はじめに

- ・東御市は、平成 16 年に東部町と北御牧村の 2 町村が合併して誕生。
- ・長野県の東部に位置し、総面積 112.37 km<sup>2</sup>、**人口約 3 万人の小さな都市。**
- ・江戸期は**北国街道の宿場町**として**発展**し、海野宿は伝統的な家並みが現在まで保存されており、昭和 61 年に「日本の道百選」、昭和 62 年には「重要伝統的建造物群保存地区」に選定され、観光の要所になっている。
- ・ブドウ、くるみ、お米が特産で、**長野県で初めて「ワイン特区」を取得** (H20.11.11)。
- ・平成 30 年に文化芸術やスポーツの一層の振興、地域特性を活かしたまちづくりを図るため、**文化芸術行政とスポーツ行政を市長部局へ移管。**

(2) 欠点を個性に

- ・平地が少ないというまちの欠点を逆に**標高差という特徴**を活かし、ワイン特区認定を取得、800~1,000m の高地でワイン振興、現在小さなワイナリーが 14 軒あるが、あと 3 軒増える。**千曲川ワインバレーの中心、適地適作の好事例。**
- ・もう一つ**標高差を活かせるものが高地トレーニング**で、**日本水泳連盟が湯の丸高原の 1,750m という標高に興味を持っていただいたこと**から、整備を進めることに。
- ・ランディ ウィルバー氏 「湯の丸は東京 2020 オリンピックの採算性のある数少ないレガシーとなり得る」…**東京から 2 時間少々で来れる、という強み**

- ・資金に関しては、国立競技場問題で国に頼れない、県も出せない、
- ・誘致から自前の屋内プール建設を目指すという方針で、**住民説明会を開くと大反対!**  
→オリンピックに間に合わせるために以下のアイデアを織り込み見切り発車。
  - ・**400mトラック練習専用**ということで3レーン仕様
  - ・**健康増進施設**ということで地方創生交付金を利用
  - ・50m プール 10レーンから8レーン、水深2.5→2m、**観客席も無い**分相応な施設に
  - ・建設費13億円のうち、寄付金5億5千万円→合宿所も含めると8億円の市債
  - ・東御市のためではなく**日本のために東御市が作る**ということに多くの方が賛同
- ・結果、**10年で返す予定が5年で完済!** (本都市問題会議の1週間前)

### <キーワード>

- ① 練習施設に特化。(観客席等設けない)
- ② 休養、宿泊場所の確保。
- ③ アスリートを支える食事環境。  
…練習後**30分以内に栄養補給**必要(ニッスイ食堂)
- ④ プライバシー・セキュリティ。  
…1、2階で**26室シングルユース可能な宿泊施設**
- ⑤ 医科学的サポート。



- ・2017年11月に400mトラック、2019年にプールはじめ①～⑤が揃ったコンパクトな施設が整った。
- ・運営費は当初計画の半分で済んだ。(監視員が要らない)
- ・平井コーチ「**東御の施設があったから大橋の金メダルがあった!**」

### <今後に向けて>

- ・コロナ禍、温暖化もあり、**陸上のニーズ**が増えてきている。
- ・**トライアスロン**の選手が使いたいという要望もある。  
標高差を活かしたイベントの活性化。スピードスケートの選手が夏場自転車で坂道を。  
→始めてみてわかることもたくさんある
- ・**ウェルネスシティとうみへ**～高地トレーニングのエビデンスを健康づくりに
- ・高齢者の健康増進、**市民の健康長寿の取り組み**に還元していく。
- ・スポーツツーリズムとワインツーリズム～**地域が潤う仕組み**を創る

## 5. 一般報告「まちづくりにおけるプロスポーツクラブの有効活用」

株式会社鹿島アントラーズFC 取締役副社長 鈴木秀樹

- (1) 全国に広がるプロスポーツクラブ
  - ・300～500の自治体は何らかの関係を持っている。
  - ・**地域に豊かさをもたらすもの。**
  - ・野球のようなクローズリーグは収益が安定。
  - ・Jリーグはオープンリーグ、FIFAの要請による。
- (2) 鹿島アントラーズと地域との深いつながり
  - ・鹿島は**最多タイトルホルダー**であるため、**地域のシンボル**となり、**にぎわい**をつくる。



- ・クラブ創設当初より地域自治体による支援を享受。
- ・ホームタウンとフレンドリータウン：合計 17 の地方自治体との公的連携。
- ・成長に向けた歩み 中期目標：営業収入 100 億円、長期目標：同 150 億円
- ・人材交流による行政連携：派遣研修により、クラブでしか得られない知見や視点
- ・鹿島市とともに進めるまちづくり：総合計画に組み込まれている
- ・ふるさと納税型クラウドファンディング：アントラーズは地域の資源

### (3) 鹿島アントラーズによる地域の社会課題解決

- ・社会課題の解決はプロスポーツクラブだけではできないが、プロスポーツクラブは多種多様な企業、人材とつながっている。  
クラブがハブとなり、そうした存在を巻き込むことで社会課題の解決が可能となる。
- ・ヘルスケア事業：スポーツドクターのノウハウと機器を地域に還元 診察券 4 万枚  
けがをした時に休んで治すのではなく、ポジティブに治療
- ・フィットネス事業：トレーナーの派遣
- ・プログラミング教室：クラブパートナーとの連携  
食育キャラバン、キャリアデザイン教室、学校教職員向け講話等々も実施  
スタジアム遠足、クラブハウス見学
- ・ペットボトル水平リサイクル：サントリー×東洋製罐×鹿島市×ガラスリソーシング  
→クラブが持っているネットワークの掛け合わせ、組み合わせ

### (4) プロスポーツが有する資産

- ・試合来場者からのフィードバックをもとに試合運営の改善や企画立案に反映。  
顧客情報（どういう年齢層、性別、地域、滞在時間…）
- ・スマートスタジアムのあるべき姿 未来を体験してもらう（実験を通して導入）  
デジタルチケット、キャッシュレス、スタジアムテック（顔認証）
- ・スタジアムビジネス ビジネスの規制緩和をしてもらう代わりに指定管理委託料 0 円  
スタジアムを 365 日稼働させ、フルで稼げるように

- ・新スタジアム構想 スタジアムを核としたまちづくり。…右図は長崎スタジアムシティ  
スポーツに投資してリターンが見込める時代に入った。



- ・まちづくり会社設立：アントラーズのアセットを活用しながら地域活性化を推進。

→そのために先進地域で遊び尽くす

全国のまちづくり事例：富山県富山市、山形県鶴岡市、香川県三豊市など  
上記を参考にしながら、まちづくりに欠かせない「とがった感性と高い意欲」を備えた地域のキーマンを発掘していく

- ・人を中心としたまちづくり：一人ひとりが輝く地域になる Playful Sustainable !
- ・地域の人が輝ける場所としてのスタジアム、そこを中心に発展していく。
- ・自治体にお願いしたいのは、プロスポーツを資源として有効に使い切ること

## 6. パネルディスカッション

テーマ：文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展

コーディネーター：東京大学大学院人文社会系研究科教授	小林真理
パネリスト：合同会社 imajimu 代表取締役	今川和佳子
：拓殖大学商学部教授	松橋崇史
：静岡県沼津市長	頼重秀一
：京都府綾部市長	山崎善也

### (1) 文化政策とはどのような領域か…小林氏

- ・ **スポーツも大切な文化領域。**
- ・ 文化庁は文化資源という言葉で文化財とは異なるものとして使うようになる前から文化資源学を専攻し研究してきた。
- ・ 文化資源のために行政は何を行うべきか？
- ・ 1990年代毎週のように文化施設が全国に出来、高揚感に包まれたが、**その後どんどんシュリンクしていった。**
- ・ 大事なことは建物ではなく、人。
- ・ 人を見つけ、育てられるよう文化行政を見直さなければいけない。
- ・ **文化、芸術、スポーツは地域のコアとしてまちづくりに横串を刺すものであるべき。**

### (2) 八戸の独自性が生み出してきたもの…今川氏

- ・ 全てに出会わせてくれた始まりの場所「はっち」。
- ・ オープンまでの3年間、ここがどのように**市民権を得てきたのか**が重要。
- ・ **写真やダンスやパフォーマンスで、市民に期待や楽しい予感を波及**させていった。
- ・ デコトラ発祥の地。アートプロジェクトの面白さ。
- ・ 色々なこと**に関わることで新しい発見、出会いがあり全てが財産**になった。
- ・ 地元にはたくさん**こぼれ落ちているものを見つめ直す**。
- ・ 酔っ払いに愛を～横丁オンリーユーシアター
- ・ **横丁の各所でパフォーマンス**。かつては8つの劇場。
- ・ **アーティスト同士の交流を通じ、横丁固有の空間の面白さを再発見**。
- ・ 三陸国際芸術祭、陸前高田から東北6県で**約3,200の無形民族文化財**がある。  
(ちなみに全国で指定されているものは約9,000件)  
そのうち**900が震災で消失**。
- ・ 心身のケアという意味でも、アジアとの交流という意味でも芸術祭は必要。
- ・ 年配だけではなく、**若い人たちをフォーカス**。若い人たちは発信力があるため、地域外からもアーティストや見学者がたくさん訪れるきっかけに。  
→「**八戸の神楽かっこいい!**」
- ・ 酒蔵活用したライブなんかも**地域経済にも良い影響**を与えている。



(3) 地域活性化におけるスポーツの役割とその変化…松橋氏

- ・地域活性化とスポーツが関連付けられて語られるようになって20年以上が経過。
- ・1993年に開幕したJリーグは、その理念に「地域密着」を掲げ、ホームタウンに愛されることが観客を集めるうえでも重要であった。
- ・1990年代後半に親会社の経営不振等でクラブが消滅するような事態が起き始めたことから、更に地域密着が浸透していった。
- ・競技人口の少ない競技は、そもそも施設が無かったり、競技者が居なかったり、ゼロからの振興が必要で、その代表格が「ホッケーのまち」で、岩手、富山、福井、島根岐阜などに国体開催のレガシーによって施設と競技者、指導ノウハウが充実。
- ・また、沼津市のフェンシング振興は、2020東京五輪の参加国合宿誘致を契機に日本フェンシング協会と包括連携協定を結ぶという新しいタイプの行政主導の「スポーツのまち」を形成しつつある。
- ・先進事例である北海道日本ハムファイターズの新スタジアムおよび周辺開発は、球団と北広島市の強い協働体制によって可能となった。
- ・トップクラブの活躍を地域社会が求め、それに応え地域が盛り上がる姿は新日鉄釜石のラグビー部や能代工業のバスケットボール部などで証明されており、プロクラブは地方都市活性化の武器になりうる。
- ・スポーツで競い合う、「全力」で相手に勝ちに行くところに活気生まれる。それはパラスポーツでもeスポーツでも同じであり、トップアスリートとの交流機会増加は地域にとっても良い効果が期待される。

(4) スポーツとアニメを活用したにぎわいの創出…頼重氏

- ・沼津市はサイクリング、マリンスポーツを楽しめる海岸線エリアはじめ、バラエティに富んだスポーツエリアを数多く有しており、「スポーツを活用したまちづくり」を積極的に推進。
- ・「フェンシングのまち沼津」というオンリーワンブランドの形成を目指し、拠点施設「F3 BASE」を開設し、裾野拡大、大会/合宿の誘致、環境整備に取り組んでいる。
- ・他にもJリーグ、サイクリング、バレーボールなどのプロスポーツが楽しめるまちを目指し、交流人口の拡大に取り組んでいる。
- ・「ラブライブ！サンシャイン!!」は、市内の海沿いにある学校を舞台にしたアニメで、聖地巡礼で各所にファンが訪れ、市民とのさまざまな交流も生まれ、まちづくりに欠かせないコンテンツの1つになっている。
- ・民間事業者は商店街へののぼり、バス、タクシーへのラッピング、特産品とのコラボ、まち歩きスタンプなどまちを挙げておもてなし。
- ・行政も広報誌やSNSでPRするとともに、夏まつりやふるさと納税のノベルティ作成を展開。
- ・スポーツ、アニメを通じて地域資源の掘り起こしや沼津の魅力発信に取り組んできたが、これを更に加速させる。



## (5) 文化芸術・スポーツで紡ぐまち・綾部…山崎氏

- ・綾部市は京都府の中央北寄りに位置する**快適性と利便性を併せ持つ田園都市**。グンゼや日東精工などの地場産業に加え、オムロン、京セラといったハイテク産業が立地する「**ものづくりのまち**」。
- ・**市民一人1文化、1スポーツ**を掲げ、文化芸術やスポーツと地域づくりを推進。
- ・2011年に開催された「里山合唱フェスティバル」をきっかけに「**合唱のまち・綾部**」を持続的に推進し、「綾部市民合唱祭」は市を代表する文化イベントに。
- ・また、京都市交響楽団や京都カルテットを誘致し、**無料で一流の音楽に触れる機会**も市民に提供。
- ・一方、文化芸術分野においても高齢化や後継者難の課題に直面しており、入門から育成、発表、鑑賞を組み合わせた事業の推進が必要。
- ・「**近き者悦ばば遠き者来る**」という孔子の言葉こそ地方創生の核心であり、**住民自身がそれぞれの地域に誇りを持たない限り、定住や交流の促進は無い!**



## 7. 所感

- ・文化芸術やスポーツがまちづくりに果たす役割の大きさを再認識することが出来た。そもそもそれは、国籍も言語も関係なく、楽しむ、感動するといった**エキサイティングでエモーショナルな人間の本質に訴えかけるもの**であるということ。それが、人を集め、人と人とを交流させるというのは至極当然なことだということ。
- ・ただ、それを日常的、大衆的にするにはその地域ならではの、**歴史的、地理的な特徴や地元企業を活かす**ということ。(お祭り、アイスリンク、標高差、トップクラブ...)
- ・そうすると、**美術館やスタジアムが核**となって人が集まり、**交流や活気で溢れかえり、魅力ある都市として発展出来る**、ということを実例で学ぶことが出来た。
- ・本市にも美術館やスタジアムはあるがアクセスに難があり、まちと一体化している感が現時点でないのが課題。
- ・**アントラーズが鹿島市の総合計画に織り込まれている**ということに驚きを覚えたが、話を聞くと、スポーツドクターが市民も診ており既に**診察券を4万枚発行**している、とか**フィットネス事業やプログラミング教室にも協力**している、とか**Win-Winの関係が成立**しており、**お互い欠かせないパートナー**になっている。
- ・その**アントラーズがスタジアムを核としたまちづくりを具体化するために新スタジアムを計画**しているというのがうらやましい限り。
- ・すでに先行しているのが、ジャパネットが長崎駅徒歩10分のところに建設中の「**長崎スタジアムシティ**」でこれまでの常識を覆すものが来年お目見えするのが楽しみ。
- ・安城市にもプロバスケットボールチーム「**シーホース三河**」の**新アリーナ**が、**三河安城交流拠点として3年後に誕生**することを考えると、本市の太陽の城跡地のリベンジ計画も様相が変わってくる。  
組むべきはデベロッパーではなく、**プロスポーツクラブや地元の優良企業**かもしれない。
- ・また、都市機能として**防災拠点**も重要であり、スポーツ施設のような**規模も収容人数も**

大きいものは当然効果的に使えるようにしておかなければならない。

- ・ もう一つ、大変興味深かったのは、マンチェスター美術館などで行われている**鑑賞治療アートセラピー**。

**美術を鑑賞することで、血圧や心拍数が下がり、痛みが和らぎ、コルチゾール**（ストレスホルモンの一種）が**減少**し、欧米では有効な治療方法ということで導入しているところも少なからずあり、医療費が削減できるとの報告もあるとのこと。

- ・ **文化芸術とスポーツを市民生活やまちづくりにどう活かすか？** あらためて考え直す時を迎えている。

#### 【同行者の所感】

・ 八戸市は、2011年、新たな交流と創造の拠点として八戸ポータルミュージアムはっちを開館し、その後八戸ブックセンター、八戸まちなか広場マチニワ、八戸市美術館と文化施設を整備してきた。八戸市美術館においては、ジャイアントルームを作りそこを地域コミュニティ拠点施設として活用するなど本来の目的である、美術品の展示、学習等以外の目的で活用している。

八戸市の文化施設は、使い勝手がよいのかどこも賑わっている。文化施設の活用方法については本市においても大いに参考に出来る。

スポーツについても北国の特性を活かした施設を整備しておりこれも八戸市の発展に寄与している。本市も2026年アジア大会を節目にスポーツによる街の発展を目指すべきと考える。

- ・ 一般報告で関心を持った二点について所感をしたい。

「まちづくりの活力は地域に根差した文化政策から生まれる」では、八戸市内の衰退に対して、高校生から「八戸市の中心街ってどこ？」と聞かれショックを受けた。確かに若者たちの関心は、市の中心街よりも郊外のショッピングセンターにあり、ワクワクできる関心ごとを中心街で見つけることは当時、困難な状況であっただろうとの意見があった。本市においても半世紀前には市の中心地域であった康生地区は現在では衰退している状況にある。

八戸市は、「地域社会の分母として文化をみんなで見出す」として「はちのへ文化のまちづくりプラン・八戸市文化芸術推進基本計画」で、地域固有性の追求、分野横断を指針として位置づけ文化のまちづくりを進めている。

文化的な施設を地域の分散するのではなく、中心街に集めその結果市民の関心を集め、民間投資も進み施設のある地域の地価は18年ぶりで上昇したとのこと。

文化に携わる人々が祭りや芸能に参加する喜びと意義を感じ続け、文化の価値を行政も市民も意識する必要があると感じた。

二点目は、長野県東御市のスポーツにおける地域づくりで、標高1500m、人口3万人の小さな町が、地域の欠点を認めたくえで転換思考を地域の資源とした事例である。標高差を生かせるものが「高地トレーニング」でトレーニングエリアを中心としたスポーツが生み出す町の魅力と発展に取り組み、新しい価値を生み出した。これに施設を設置することにより、利益を得るものと相互に協力し合うという意識改革が国の示す

「地域創生」との話であった。

本市にもスポーツ施設はあるが、国際大会ができる施設はなく、特化されていない現状にあり、強化する必要性を感じる。

今回の全国都市問題会議のテーマは「文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展」であった。二日間開催されたが中でも(株)鹿島アントラーズ取締役副社長 鈴木秀樹氏の「まちづくりにおけるプロスポーツクラブの有効活用」の一般報告に感銘をうけた。プロ野球のNPBや独立リーグ、サッカーのJリーグ、バスケットボールのBリーグを合わせると、全国に100を超えるプロスポーツクラブが存在する。プロスポーツクラブを抱える地域の住民は、その活躍を日々、話題にし、心のよりどころにし、プロスポーツクラブが人々の生活に潤いと彩りをもたらし、誇りを醸成しているとの事で、アントラーズサポーターの姿をテレビなどで観ると、うなずけた。また、プロスポーツクラブは単に地域に賑わいをつくるだけではなく、人々の心象風景を変えるにとどまらず、まちの姿そのものを変える力がある、とのことで驚いた。プロスポーツクラブには地元自治体、企業と連携しながら、まちづくりを推進していくポテンシャルがあるとのことで、アントラーズは現在までにおいて、地域の社会課題の解決のために数々の事業に取り組み始めた。

アントラーズのチームドクターと理学療法士(PT)が整形外科医療、リハビリの高度なノウハウを提供する医療事業、カシマスタジアム内にフィットネスクラブを開設して、健康事業。ホームタウン5市の教育委員会と手を携えた地域の教育事業。その他にもアントラーズのオフィシャルパートナーと地域自治体とを仲介した事業を展開している事例をきいて、プロスポーツクラブとの連携によるまちづくりの可能性や有効性を大いに感じた。是非とも本市においてもどこかのプロスポーツクラブを誘致して連携したまちづくりを展開することを検討してはと提言していきたい。

基調講演と主報告の中からの学びと提言について書きたい。基調講演では日比野勝彦氏によりアートの役割について、街の中でアートがどのような役割を果たすのかという話をきいた。国際博物館会議(ICOM)が博物館、美術館の定義を情報やインスピレーション、洞察を提供する場としていると聞いた。アートには人の心を動かす力があり、人の心を癒すことで、共生社会をつくるコミュニケーションが可能であるという。つまり、薬ではなくひとの繋がりで治すという、社会的処方、文化的処方という考え方である。地域づくりにアートを取り入る。そのためには地域住民、ソーシャルワーカー、アーティストが一丸となって取り組むためのアートコミュニケーターの育成が大切だという。その具体的な好事例として、八戸市のまちづくりに文化事業ディレクターとして関わった吉川由美氏の取り組みである。地域住民をアートで巻き込み、中心街をみんなの関心空間にし、地域資源を再発見させ、フラットな交流と対話の場とした。ソフト面ではアートが機能する場づくりを行い、場づくり、機運づくりを行ったうえで、ハード面で八戸ポータルミュージアムはっちの利活用につなげた。

本市への提言としては、岡崎市の美術館は中心地から離れた場所に位置している、自然な人の流れから分断しているのが課題ではないだろうか？美術館、博物館機能を街中へ人々の自然な周遊の中にアートが溶け込むロケーションの工夫が必要なのではないか。